

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月13日(木) 14:50~16:50
- 3 開催場所 岐阜工業高校 記念館 大会議室
開催にあたり、部活動の練習風景の参観をしていただいた。
- 4 参加者
- | | | |
|----|-------|--------------|
| 委員 | 小川 豊 | 岐阜工業高校育友会会長 |
| 委員 | 安藤 博之 | 岐阜工業高校育友会副会長 |
| 委員 | 亀井 孝宏 | (株)光製作所 総務部長 |
| 委員 | 田島 安子 | 地域住民 |
| 委員 | 山田 愛子 | 地域住民 |
| 委員 | 渡邊 伸一 | 名古屋鉄道(株)笠松駅長 |
-
- | | | |
|-----|-------|-----------|
| 学校側 | 堀 秀樹 | 校長 |
| | 関谷 博子 | 事務部長 |
| | 永瀬 直哉 | 教頭 |
| | 岩口 一平 | 教頭 |
| | 関口 健 | 教務主任(全日制) |
| | 高橋 宏幸 | 教務主任(定時制) |
| | 増井勇一郎 | 進路支援部長 |
| | 草壁 善則 | 工業教育部長 |
| | 小澤 智也 | 研修主事 |

5 会議の概要(協議事項)

- 令和6年度 各分掌における自己評価について
・自己評価報告(教務部、進路支援部・特別活動部・工業教育部)
- 令和6年度 地域担い手育成総合戦略事業について
- 令和6年度 地域連携について
- 令和6年度 部活動について
- 令和6年度の進路状況
- トピックス

 部活動の参観(後半)

レスリング部、ラグビー部、バレーボール部、バスケットボール部、ボクシング部
吹奏楽部、電子機械研究部

【第3回学校運営協議会にていただいたご意見】

意見1：本校のOBであるが、30年前には、地域との交流はこれほどなかったように思う。そういう点に関しては、こういった地域とのつながりはとてもよいものだと感じる。学校で行う学校教育、家庭で行われる家庭教育、地域で行われる社会教育という点で、学校で教えてもらえないことを教えてもらえる場になる、また地域とつながることで、外部の大人との会話が、コミュニケーション能力を高めることにもつながっていく。様々な観点から、地域とのつながりはこれからも大切にしてもらいたい。

意見2：コロナ禍を経過して現在採用される若い世代は、体調を崩すと簡単に欠勤する。職場の若い世代と話をしていると、子どもっぽさが残る。ただ社会人として通用させていくためには、自ら取り組めるようになっていかなくてはならない。だからこそ、学校において「自ら学ぶ」姿勢を躰として身に付けさせていくことは重要なことだと感じる。

また、自動車部のミニSLの運行も地域とのつながりを深めるためだが、そのつながりが「人のつながり」につながっている。大切に継続してほしい。

部活動の在り方についても悩ましい問題であるが、社会人指導者の有効活用等、柔軟な考え方や短い時間で上達させる指導者の力量が求められる時代になっていくと感じている。

意見3：地域との交流はとても大切だと思うし、私たちの会社も大切にしている。ただ、まずは高校生活の場となる学校を大切に考えることも忘れてはならない。岐阜工業高校に通うメリットは何なのかということを念頭に置いて取り組んでもらいたい。いい人材を輩出する学校であってほしいと願っている。

意見4：朝の通学の様子を見ていると、笠松駅東側の地下道において、自転車を降りないで通行する生徒が多い。ヘルメットをかぶっていない生徒もよく見る。交通ルールを守る岐阜工業高校の生徒でいてほしいと思っている。

意見5：放課後の下校時に、生徒の様子を見ているとみっともない姿でおしゃべりをしていたり、スマートフォンを触っている生徒をよく見かける。校内にいる時の姿とは全然違っている。放課後の生徒の様子については、家庭教育が問題だと思っているが、地域との交流を大切にすること同様に、普段の姿で地域からの信頼を獲得していきたいものである。

意見6：笠松町と岐阜工業高校の地域とのつながりは強い。子どもとのふれ合いが多い様子がSNS等からよくわかる。できればそういったつながりが他の市町にも増えるといいと思っている。

6. 会議のまとめ

・第3回学校運営協議会で、「自己評価・学校関係者評価の報告」を説明した。地域とのつながりを大切にしていると言いながらも、普段の様子もよく見ていただけていることを痛感した会議であった。地域貢献活動の時だけ頑張るのではなくて、普段の生活が大切だという教育の「原点」に近い部分を、教師として忘れてはならないと感じた。
「スクールミッション」についても最終確認を行った。全委員より「スクールミッション」について承認が得られた。